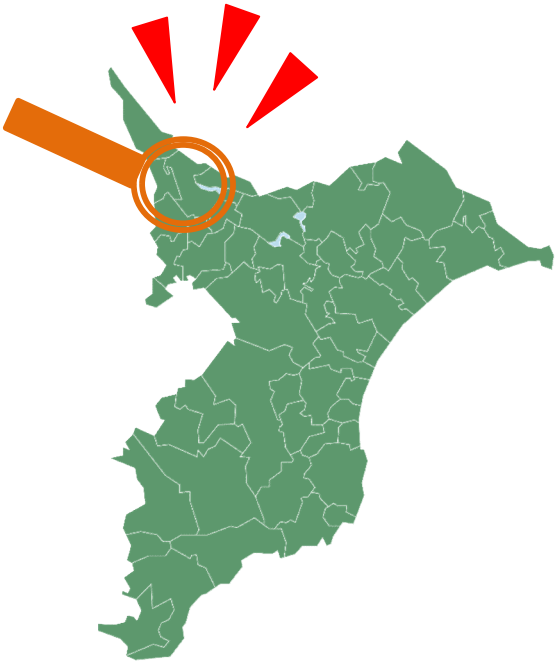
２０２６・8

柏の景気情報

令和8（２０２６）年8月の調査結果



柏　商　工　会　議　所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当）　柏商工会議所 中小企業相談所
〒277-0011　千葉県柏市東上町７－１８
ＴＥＬ　：　０４－７１６２－３３０５
ＦＡＸ　：　０４－７１６２－３３２３
ＵＲＬ　：　http://www.kashiwa-cci.or.jp
Ｅ－ｍａｉｌ　：　info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（令和８年８月の調査結果のポイント）

★調査結果のまとめ

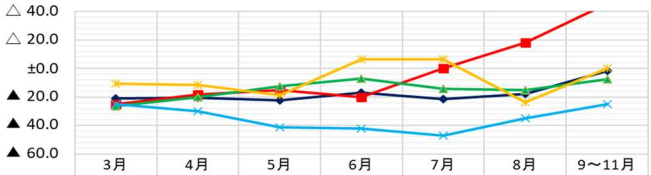
回答期間：令和８年８月24日～令和８年９月４日　調査対象：柏市内173事業所及び組合にヒアリング、回答数61

依然物価上昇が続く中、酷暑・豪雨災害が重なり、各業界一定の打撃か。

８月の全産業合計の業況ＤＩ値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲１８．０（前月水準▲２１．６）となりマイナス幅が３．６ポイント縮小した。

前月から引き続き、各業界へ物価高の影響が続いている。各業界、価格転嫁等で対策をしている中、千葉県豪雨災害が重なり、市内でも被害を受けた事業者も多かった。今後は天候等の災害に対するBCPや保険の見直し等、対策する必要がありそうだ。

柏の景気情報・産業別業況DI



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9～11月
全産業	▲ 21.2	▲ 20.6	▲ 22.5	▲ 16.9	▲ 21.6	▲ 18.0	▲ 1.6
建設	▲ 25.0	▲ 18.1	▲ 15.3	▲ 20.0	±0.0	△ 18.1	△ 45.4
製造	▲ 26.6	▲ 20.0	▲ 12.5	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 15.3	▲ 7.6
卸・小売	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 41.1	▲ 42.1	▲ 47.0	▲ 35.0	▲ 25.0
サービス	▲ 10.5	▲ 11.7	▲ 18.7	△ 6.2	△ 6.2	▲ 23.5	±0.0

★業種別の動向

前月と比べたＤＩ値の動き　↗ 改善　➡ 横ばい　↘ 悪化

建設業

材料費高騰のため畳工事代金を上げたので、業況改善した。（畳工事請負・畳製造販売業）売上は減少し、採算はやや悪化したが、資金繰り等に顕著な影響はまだない。世界情勢や国政状況に変化はあるが、技術サービス業として、今後の見通しは現況と大きな変化は見込んでいない。弊社のような中小企業としてもこれらの災害に対処すべきＢＣＰの見直しや、災害被害の軽減や速やかな企業活動の復活を真剣に考えなければならないと感じている。（地質調査・地質コンサルタント）

製造業

化粧品関連は壊滅状態だけど医療品関連の新企画が続々立ち上がって底打ちしたようである。しかしまだメイン企画の先行きが不安定なので利益アップには繋がらない。（プラスチック加工）

8/13 千葉県での豪雨による雨漏りのため、一部製品に被害が出ている。（酒類製造業）

卸・小売業

８月上旬の台風通過（被害はない）から気温が下がりはじめ行楽需要が低迷。８月中旬のゲリラ豪雨とお盆は出かける人が減少し節約や生活防衛の心理が浸透している。２年前から商品の仕入れや資材の値上が続いており、一時は値上前の買いだめで底堅いものがあったが、値上ニュースに対する消費者心理は確実に反応が薄くなっている。食品は価格訴求と価値訴求の二極化で客数をつなぎとめる工夫を継続している。（大型小売店）

豪雨の影響により、一部店舗等の復旧の目途が立たない。（その他の各種商品小売業）

サービス業

近年、多い自然災害に、今一度、災害リスクの点検と備えを保険の見直しを含め行っていきたい。（不動産賃貸・管理業）

建築資材の高騰や建築の値上がりで売買価格も値上がりしている。それに加えて、連日の酷暑により客足が鈍っている。金利もじわじわとあがっており厳しい状況が続いております。（不動産管理業）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI－LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲１８．０に対し、「ＣＣＩ－ＬＯＢＯ」が▲２０．２で、柏のほうが全国平均と比較して２．２ポイント上回っている。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、サービス業である。

柏商工会議所
The Kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図	 特に好調	 好調	 まあまあ	 不振	 極めて不振
	DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 18.0	18.1	▲ 15.3	▲ 35.0	▲ 23.5
CCI―LOBO	▲ 20.2	▲ 16.0	▲ 20.1	▲ 24.0	▲ 17.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 13.1	27.2	▲ 15.3	▲ 30.0	▲ 17.6
CCI―LOBO	▲ 5.0	▲ 13.5	1.5	▲ 8.7	▲ 1.7

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 22.9	9.0	▲ 7.6	▲ 45.0	▲ 29.4
CCI―LOBO	20.3	▲ 19.6	▲ 15.4	▲ 22.1	▲ 24.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 60.6	▲ 45.4	▲ 84.6	▲ 65.0	▲ 47.0
CCI―LOBO	▲ 70.7	▲ 77.3	▲ 72.6	▲ 71.3	▲ 66.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	11.4	45.4	±0.0	±0.0	11.7
CCI―LOBO	20.1	37.1	12.2	16.4	21.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 8.1	27.2	±0.0	▲ 25.0	▲ 17.6
CCI―LOBO	▲ 14.1	▲ 7.7	▲ 13.5	▲ 18.9	▲ 15.6

ＣＣＩ－ＬＯＢＯ

商工会議所早期景気観測（8月速報）

調査期間：2026年8月14日～20日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況ＤＩは、夏休み需要が追い風となり、改善
先行きは、不透明感が拭えず、慎重な見通し

全産業合計の業況ＤＩは、▲20.2（前月比＋1.0ポイント）

小売・サービス業では、夏休み需要に伴う観光・帰省客の増加により客足が伸び、改善した。建設業では、中東情勢の緊迫化に伴う調達困難化や資材価格の上昇が落ち着きを見せる中、価格転嫁に進展がみられ、改善した。
一方で、製造業ではエネルギーや原材料価格の上昇に加え、猛暑による生産性の低下が重なり、悪化した。卸売業でも仕入価格の高騰に対する販売価格への転嫁が十分に進まず、悪化した。
なお、熊本地震や千葉豪雨などの自然災害の発生に伴い、供給網の滞りや生産遅延、旅館や飲食店の予約キャンセルなどの影響が聞かれている。

先行き見通しＤＩは、▲20.1（今月比＋0.1ポイント）

先行きは、高水準での賃上げに伴う実質賃金の増加や、気温の低下に伴う行楽シーズンの到来などが、消費マインドの回復を後押しすることが期待される。
一方で、国際情勢の不安定化をはじめ、金利上昇や長期化する円安・物価高に伴うコスト増加が重荷となっている。先行き不透明感が拭えない中、十分な価格転嫁が進まないことも懸念材料となっており、今後の見通しに対しては慎重な見方が強まっている。

【建設業】
「建設・住宅資材の供給状況は5～6月頃と比べて改善傾向にあり、調達の偏りや目詰まりの解消が進んでいる。資材価格も依然として高水準ではあるものの、上昇ペースは落ち着いてきたように感じる」（一般工事業）

「人材確保のために基本給の引き上げを行った結果、賃上げ環境整備に係る補助金が適用され、コスト負担の軽減につながった」（電気通信工事業）

【製造業】
「エルニーニョ現象の影響で飼料相場が高騰していることに加え、円安や燃料高の影響で調達コストが上昇し、すり身価格が急騰している」（食料品製造業）

「熊本地震や千葉豪雨で同業者や取引先の自動車メーカー等が被災し、生産に影響が出ている。年々BCPの重要性が増しており、対策の有無が企業の明暗を分けると実感している」（鉄鋼業）

【卸売業】
「熊本地震の影響により、取引先の製粉会社が出荷停止となったことで調達期間が大幅に長期化し、事業活動の停滞を余儀なくされている。原材料の高騰と供給網の滞りという二重の打撃により厳しい経営状況が続いている」（飲食料品卸売業）

「中東情勢の影響による供給難は解消されたが、販売先は既に在庫を厚くしているため、足もとの需要は弱く、当面の受注は減少見込み」（包装資材卸売業）

【小売業】
「お盆期間中の帰省客や地域イベントにより集客効果が高まっており、売上の回復が見込まれる。交通インフラの制約や人手不足といった課題は残るものの、この好機を生かして集客・営業活動を強化する」（総合スーパー）

「夏休み期間中にイベントを複数回開催したところ、全て満員となった。顧客満足度が向上したほか、若年層の認知度アップにもつながった」（菓子小売業）

【サービス業】
「円安の影響からか国内で過ごす人が増え、お盆期間中の需要が大幅に高まった。当地も多くの人手に恵まれ賑わった」（飲食店）

「熊本地震の影響により予約キャンセルが一時急増したものの、8月以降は支援目的の来訪者が増加し、稼働率は回復傾向にある。一方で、会合の自粛傾向が続いている」（旅館）

全国・産業別業況ＤＩの推移

「見通し」は当月水準に比較した向こう3ヶ月の先行き見通しＤＩ

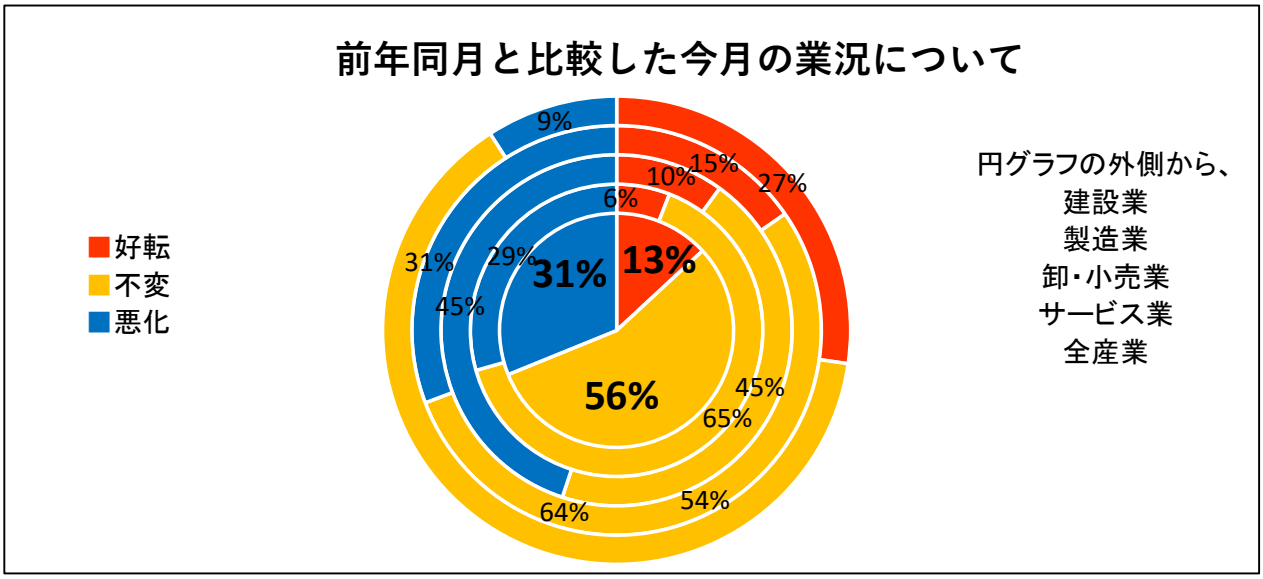
	全産業	建　設	製　造	卸　売	小　売	ｻｰﾋﾞｽ
3月	▲ 20.0	▲ 15.5	▲ 19.1	▲ 30.2	▲ 25.1	▲ 15.1
4月	▲ 21.9	▲ 17.7	▲ 23.0	▲ 23.1	▲ 23.5	▲ 8.6
5月	▲ 24.3	▲ 24.8	▲ 22.6	▲ 30.8	▲ 30.7	▲ 18.0
6月	▲ 22.2	▲ 22.7	▲ 20.6	▲ 24.5	▲ 29.2	▲ 17.5
7月	▲ 21.2	▲ 18.2	▲ 18.0	▲ 24.0	▲ 28.6	▲ 19.7
8月	▲ 20.2	▲ 16.0	▲ 20.1	▲ 26.6	▲ 24.0	▲ 17.6
見通し	▲ 20.1	▲ 18.1	▲ 16.8	▲ 23.9	▲ 24.3	▲ 19.8

令和８年（２０２６年）8月の動向

【業況について】

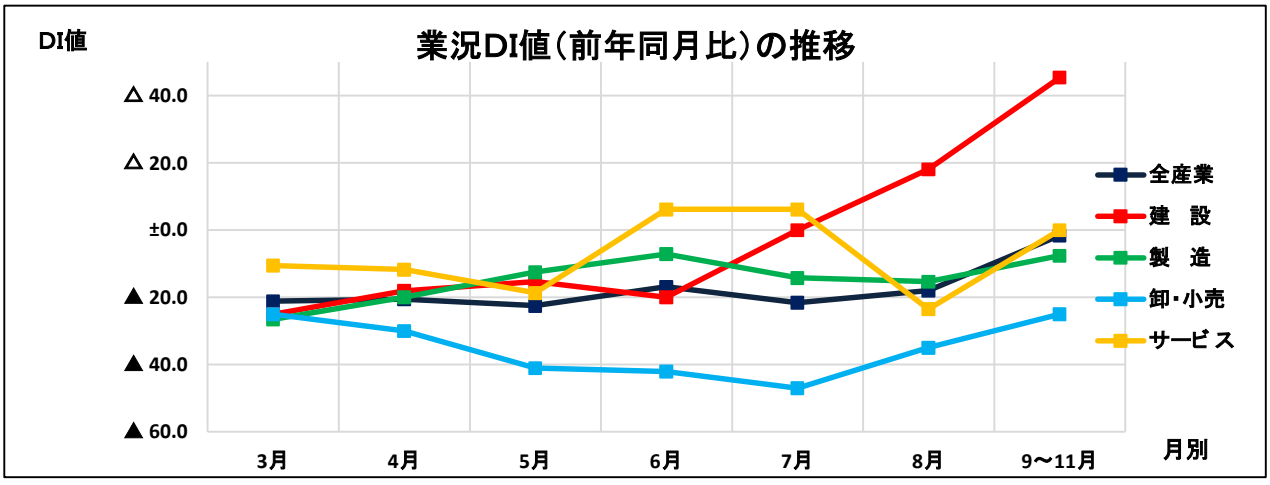
○ 8月の全産業合計のＤＩ値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲１８．０（前月水準▲２１．６）となり、マイナス幅が３．６ポイント縮小した。

○ 向こう３ヶ月（9月から11月）の先行き見通しについては、全産業では、▲１．６（前月水準▲８．３）となり、マイナス幅が６．７ポイント縮小した。



業況ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

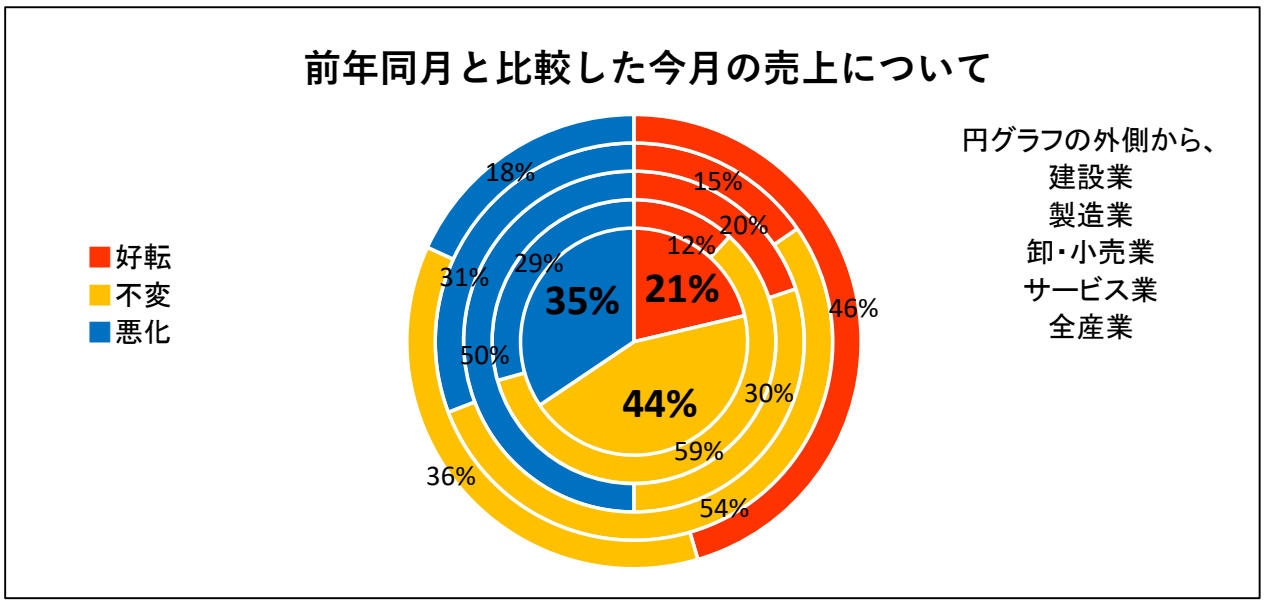
	令和8年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月	（ 8～10月 ）
全産業	▲ 21.2	▲ 20.6	▲ 22.5	▲ 16.9	▲ 21.6	▲ 18.0	▲ 1.6	（ ▲ 8.3 ）
建　設	▲ 25.0	▲ 18.1	▲ 15.3	▲ 20.0	±0.0	△ 18.1	△ 45.4	（ ▲ 9.0 ）
製　造	▲ 26.6	▲ 20.0	▲ 12.5	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 15.3	▲ 7.6	（ ±0.0 ）
卸・小売	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 41.1	▲ 42.1	▲ 47.0	▲ 35.0	▲ 25.0	（ ▲ 23.5 ）
サービス	▲ 10.5	▲ 11.7	▲ 18.7	△ 6.2	△ 6.2	▲ 23.5	±0.0	（ ±0.0 ）



【売上について】

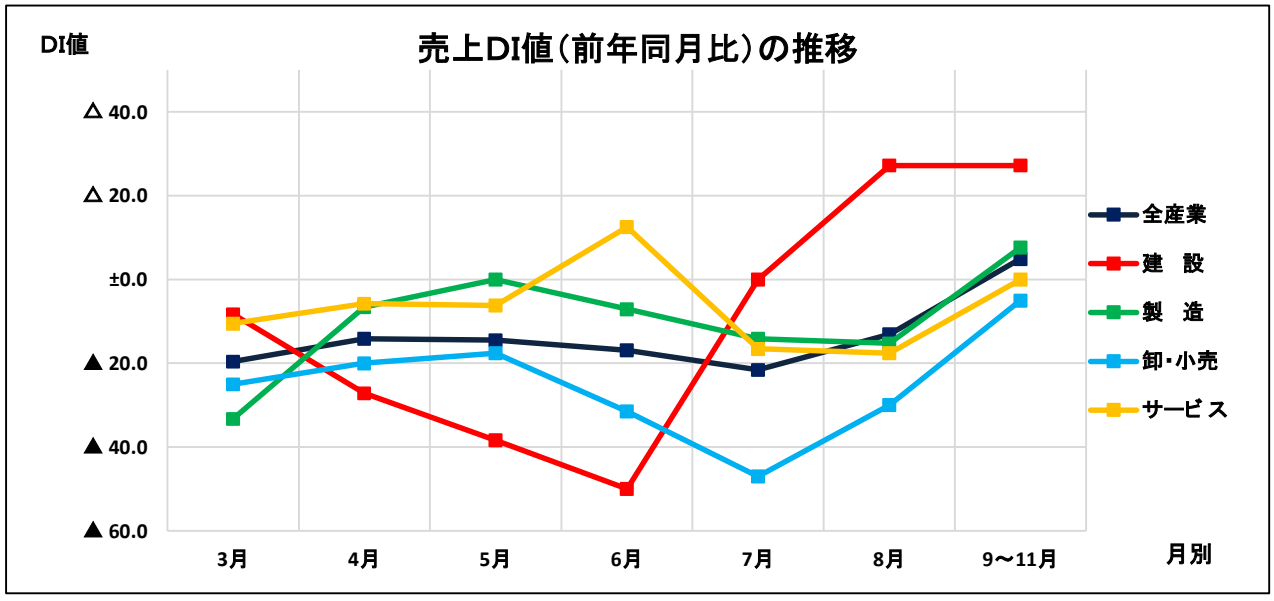
○8月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲１３．１前月水準▲２１．６）となり、マイナス幅８．５ポイント縮小した。

○向こう３ヶ月（9月から11月）の先行き見通しについては、全産業では、△４．９（前月水準▲１.６）となり、プラス幅が６．５ポイント拡大した。



売上ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「増加」の回答割合ー「減少」の回答割合

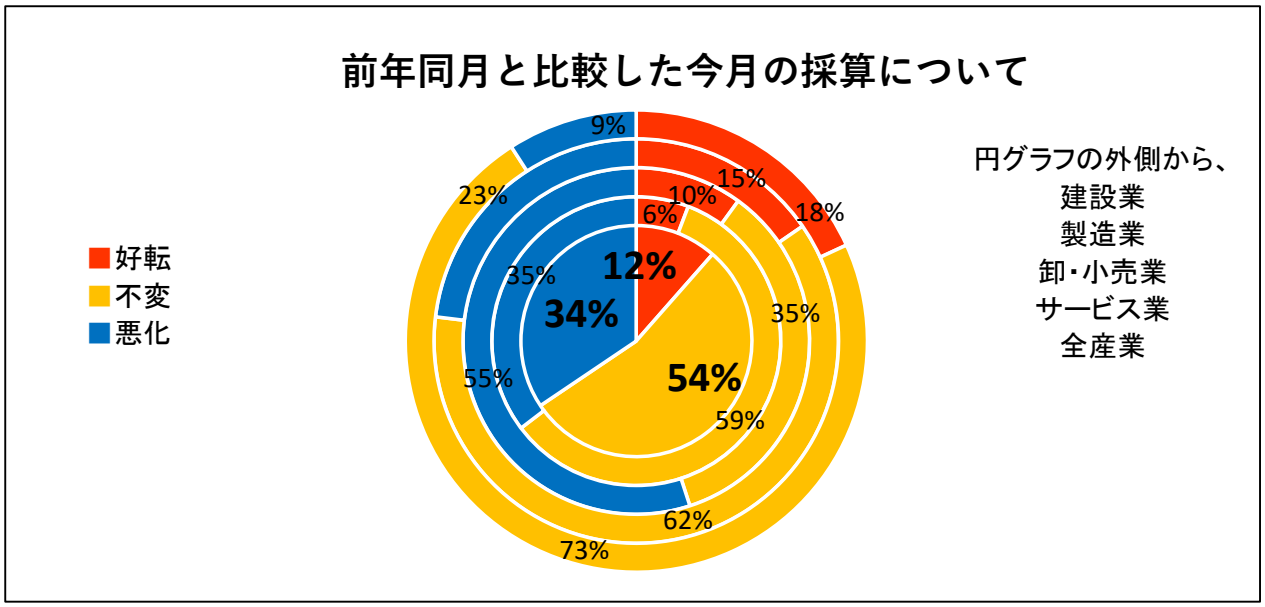
	令和8年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月	8～10月
全産業	▲ 19.6	▲ 14.2	▲ 14.5	▲ 16.9	▲ 21.6	▲ 13.1	△ 4.9	▲ 1.6
建　設	▲ 8.3	▲ 27.2	▲ 38.4	▲ 50.0	±0.0	△ 27.2	△ 27.2	△ 9.0
製　造	▲ 33.3	▲ 6.6	±0.0	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 15.3	△ 7.6	△ 14.2
卸・小売	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 17.6	▲ 31.5	▲ 47.0	▲ 30.0	▲ 5.0	▲ 11.7
サービス	▲ 10.5	▲ 5.8	▲ 6.2	△ 12.5	▲ 16.6	▲ 17.6	±0.0	▲ 11.1



【採算について】

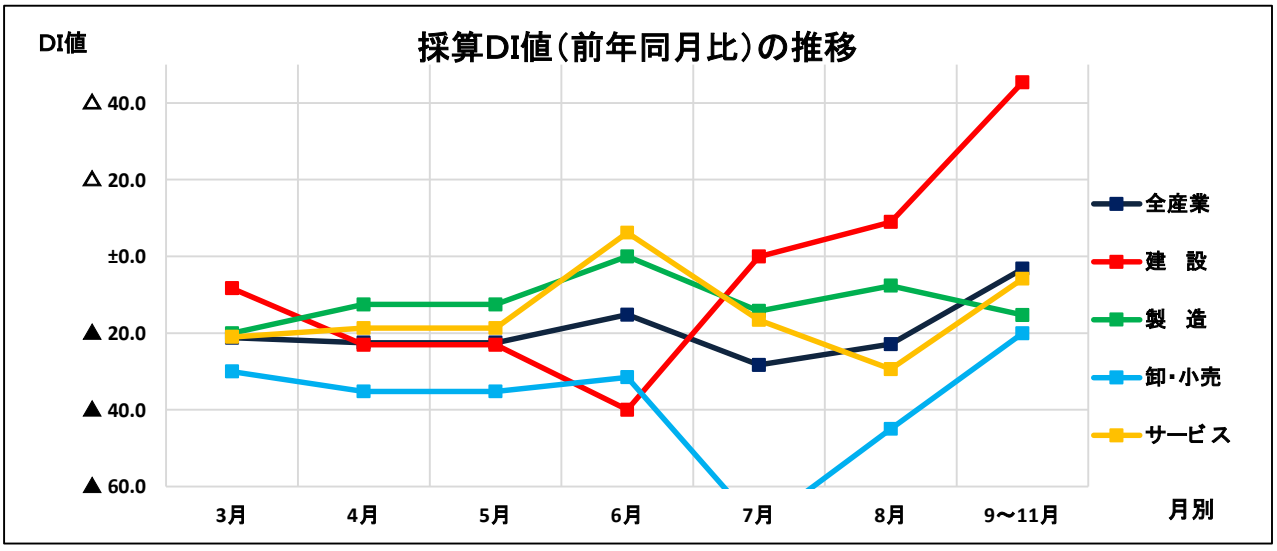
○ 8月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲２２．９（前月水準▲２８．３）となり、マイナス幅が５．４ポイント縮小した。

○ 向こう３ヶ月（9月から11月）の先行き見通しについては、全産業では、▲３．２（前月水準▲１３．３）であり、マイナス幅が１０．１ポイント拡大した。



採算ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

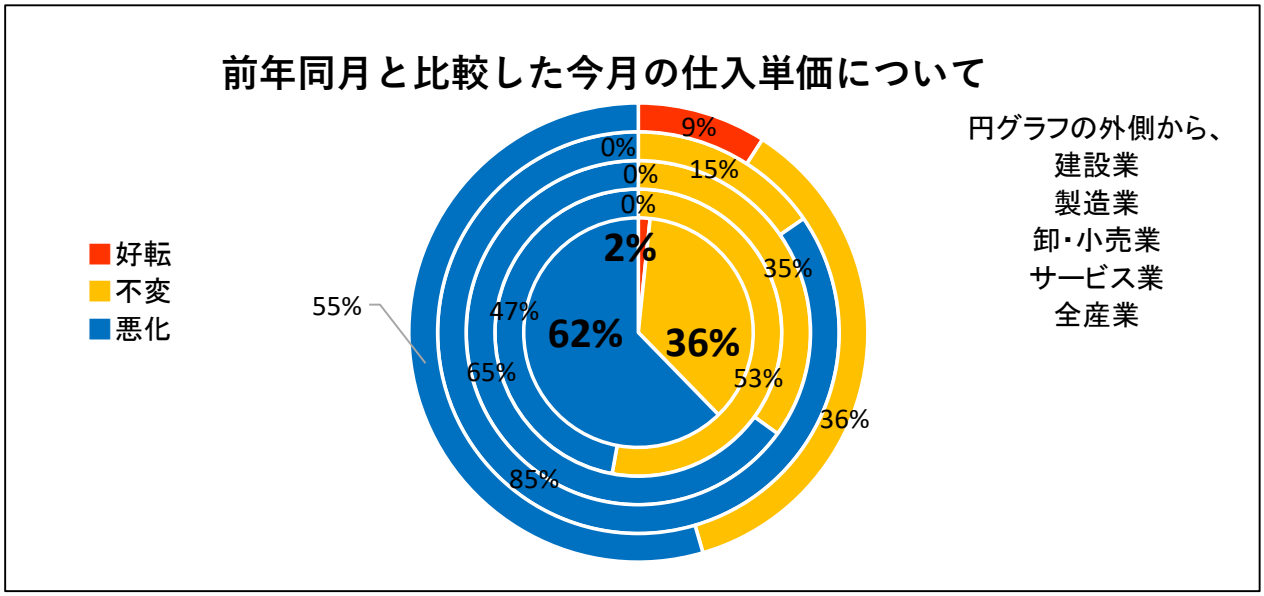
	令和8年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月	（ 8～10月 ）
全産業	▲ 21.2	▲ 22.5	▲ 22.5	▲ 15.2	▲ 28.3	▲ 22.9	▲ 3.2	（ ▲ 13.3 ）
建　設	▲ 8.3	▲ 23.0	▲ 23.0	▲ 40.0	±0.0	△ 9.0	△ 45.4	（ ±0.0 ）
製　造	▲ 20.0	▲ 12.5	▲ 12.5	±0.0	▲ 14.2	▲ 7.6	▲ 15.3	（ ±0.0 ）
卸・小売	▲ 30.0	▲ 35.2	▲ 35.2	▲ 31.5	▲ 70.5	▲ 45.0	▲ 20.0	（ ▲ 35.2 ）
サービス	▲ 21.0	▲ 18.7	▲ 18.7	△ 6.2	▲ 16.6	▲ 29.4	▲ 5.8	（ ▲ 11.1 ）



【仕入単価について】

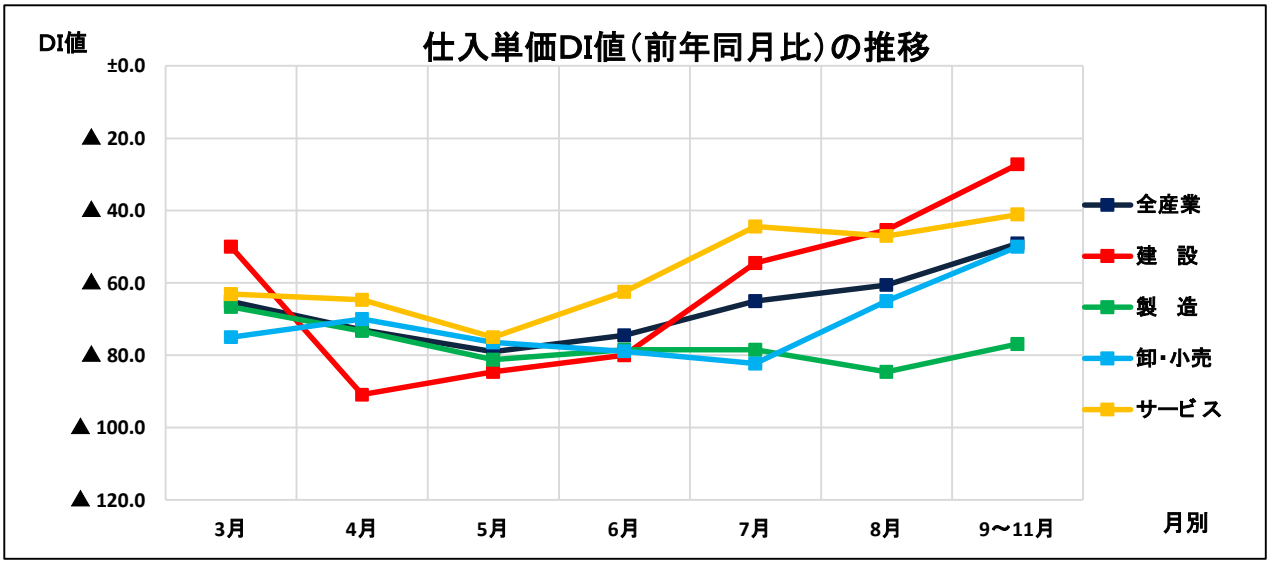
○8月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲６０．６（前月水準▲６５．０）となり、マイナス幅４．４ポイント縮小した。

○向こう３ヶ月（9月から11月）の先行き見通しについては、全産業では、▲４９．１（前月水準▲５８．３）となり、マイナス幅が９．２ポイント縮小した。



仕入単価ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「下落」の回答割合ー「上昇」の回答割合

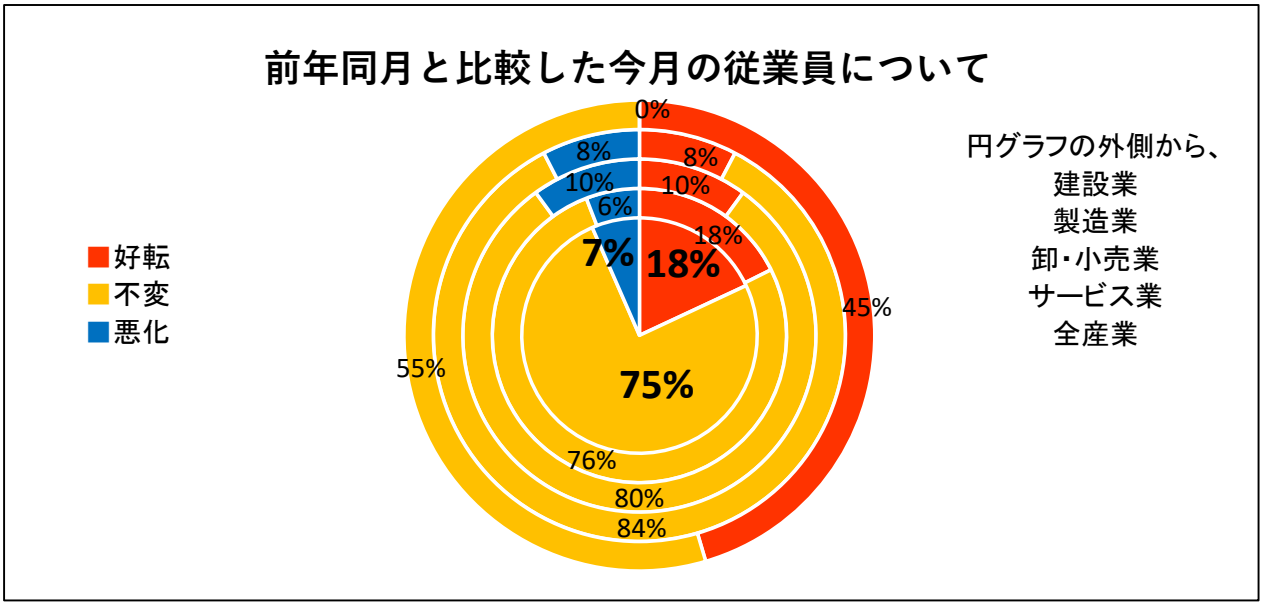
	令和8年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月	（ 8～10月 ）
全産業	▲ 65.1	▲ 73.0	▲ 79.0	▲ 74.5	▲ 65.0	▲ 60.6	▲ 49.1	（ ▲ 58.3 ）
建　設	▲ 50.0	▲ 90.9	▲ 84.6	▲ 80.0	▲ 54.5	▲ 45.4	▲ 27.2	（ ▲ 45.4 ）
製　造	▲ 66.6	▲ 73.3	▲ 81.2	▲ 78.5	▲ 78.5	▲ 84.6	▲ 76.9	（ ▲ 78.5 ）
卸・小売	▲ 75.0	▲ 70.0	▲ 76.4	▲ 78.9	▲ 82.3	▲ 65.0	▲ 50.0	（ ▲ 58.8 ）
サービス	▲ 63.1	▲ 64.7	▲ 75.0	▲ 62.5	▲ 44.4	▲ 47.0	▲ 41.1	（ ▲ 50.0 ）



【従業員について】

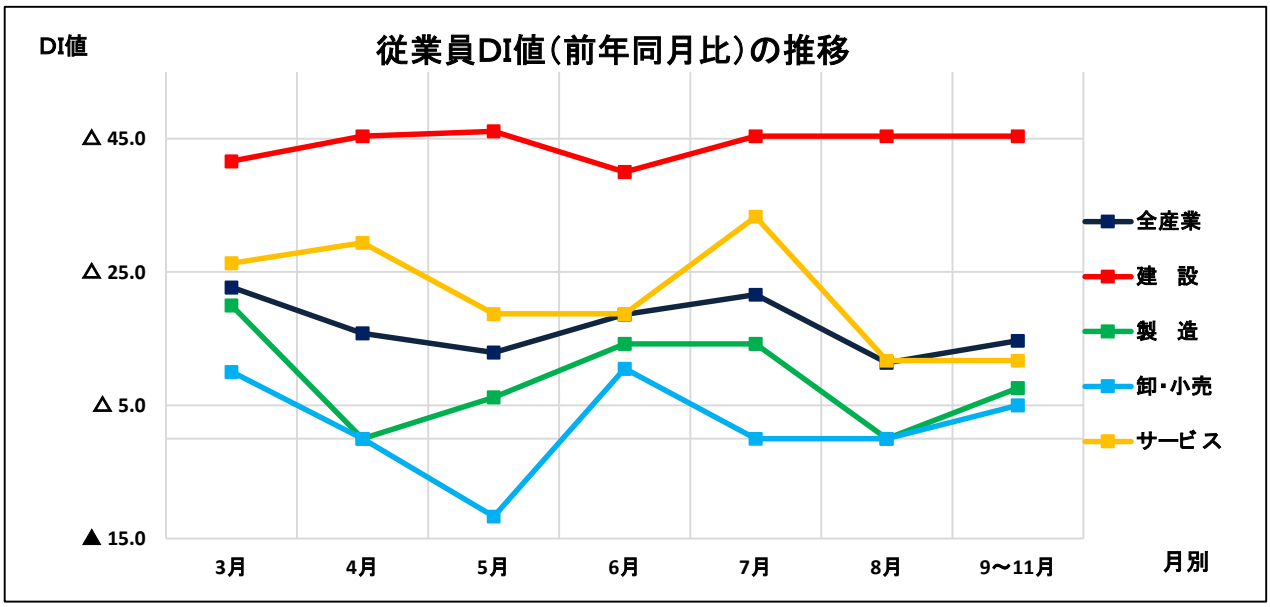
○8月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△１１．４（前月水準△２１．６）となり、プラス幅が１０．２ポイント拡大した。

○向こう３ヶ月（9月から11月）の先行き見通しについては、全産業では、△１４．７（前月水準△２５．０）となり、プラス幅１０．３ポイント拡大した。



従業員ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「過剰」の回答割合ー「不足」の回答割合

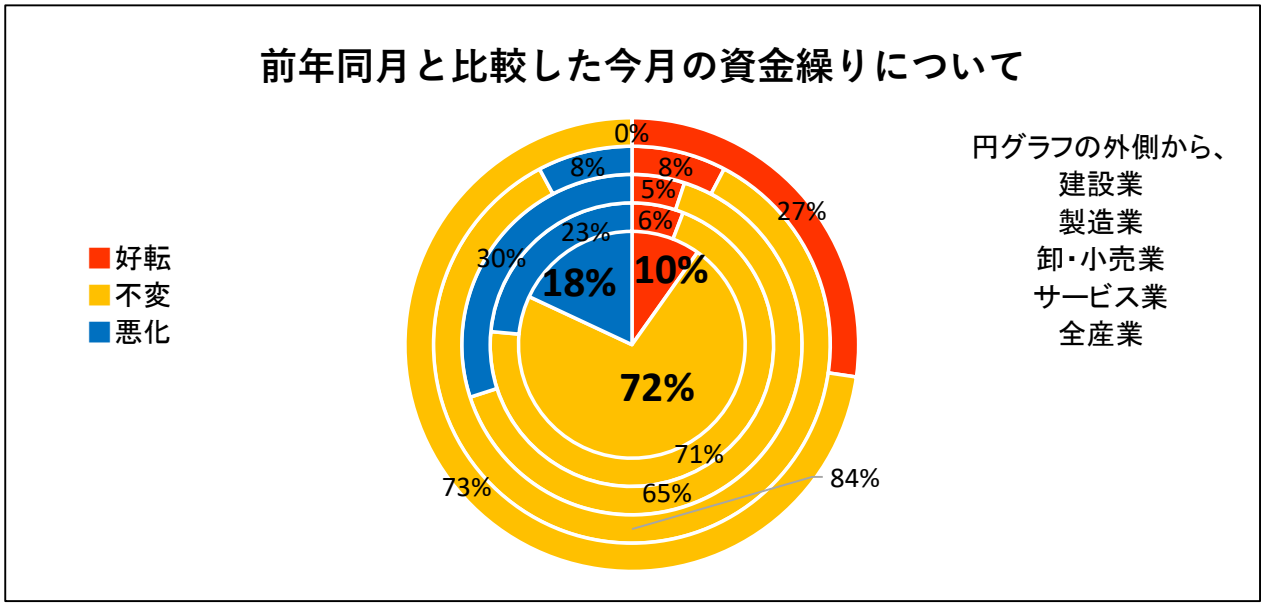
	令和8年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月 （ 8～10月 ）
全産業	△ 22.7	△ 15.8	△ 12.9	△ 18.6	△ 21.6	△ 11.4	△ 14.7 （ △ 25.0 ）
建　設	△ 41.6	△ 45.4	△ 46.1	△ 40.0	△ 45.4	△ 45.4	△ 45.4 （ △ 54.5 ）
製　造	△ 20.0	±0.0	△ 6.2	△ 14.2	△ 14.2	±0.0	△ 7.6 （ △ 35.7 ）
卸・小売	△ 10.0	±0.0	▲ 11.7	△ 10.5	±0.0	±0.0	△ 5.0 （ ▲ 5.8 ）
サービス	△ 26.3	△ 29.4	△ 18.7	△ 18.7	△ 33.3	△ 11.7	△ 11.7 （ △ 27.7 ）



【資金繰りについて】

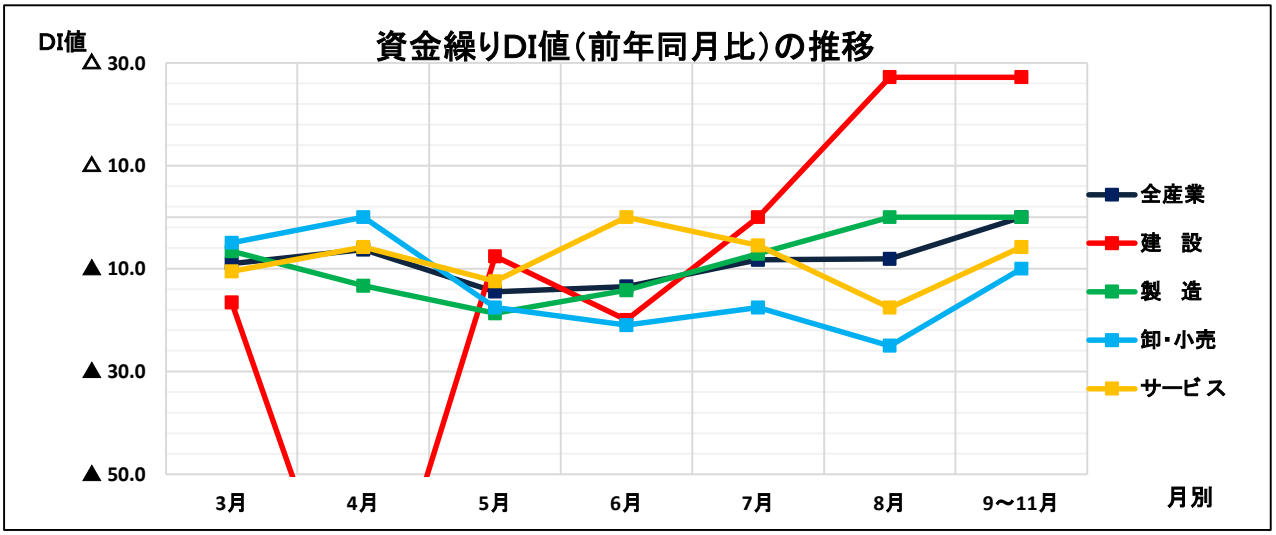
○ 8月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲８．１（前月水準▲８．３）となり、マイナス幅が０．２ポイント縮小した。

○ 向こう３ヶ月（8月から11月）の先行き見通しについては、全産業では、±０（前月水準▲１５．０）となり、マイナス幅が１５．０ポイント縮小した。



資金繰りＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合ー「悪化」の回答割合

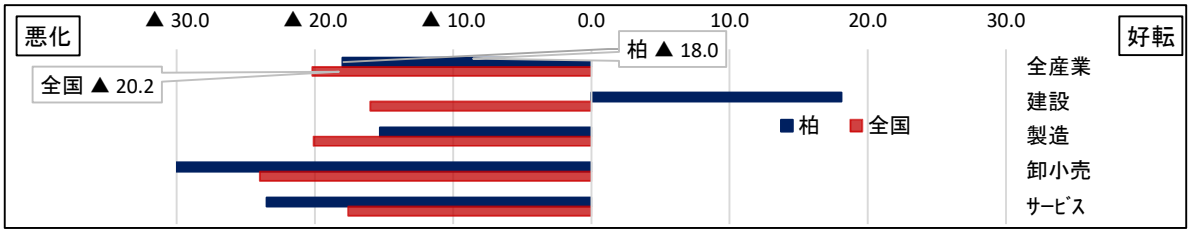
	令和8年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月 （ 8～10月 ）
全産業	▲ 9.0	▲ 6.3	▲ 14.5	▲ 13.5	▲ 8.3	▲ 8.1	±0.0 （ ▲ 15.0 ）
建　設	▲ 16.6	▲ 90.0	▲ 7.6	▲ 20.0	±0.0	△ 27.2	△ 27.2 （ ▲ 27.2 ）
製　造	▲ 6.6	▲ 13.3	▲ 18.7	▲ 14.2	▲ 7.1	±0.0	±0.0 （ ▲ 14.2 ）
卸・小売	▲ 5.0	±0.0	▲ 17.6	▲ 21.0	▲ 17.6	▲ 25.0	▲ 10.0 （ ▲ 23.5 ）
サービス	▲ 10.5	▲ 5.8	▲ 12.5	±0.0	▲ 5.5	▲ 17.6	▲ 5.8 （ ±0.0 ）



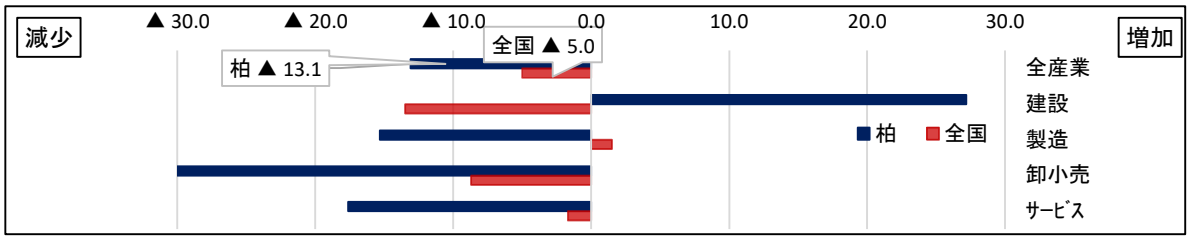
全国（ＣＣＩ－ＬＯＢＯ）との比較

【CCI－LOBOとは】
日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の 景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

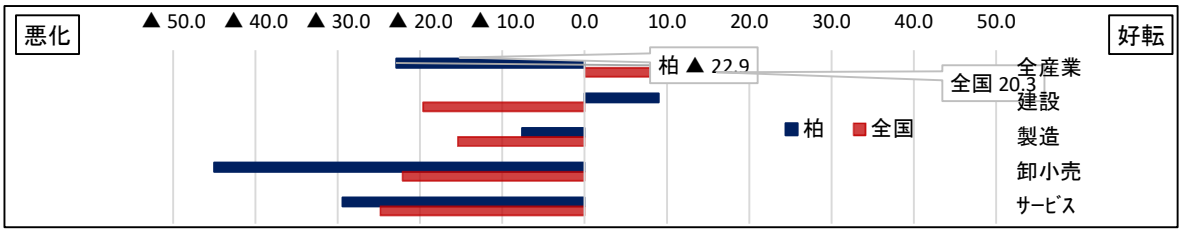
【業況ＤＩ】



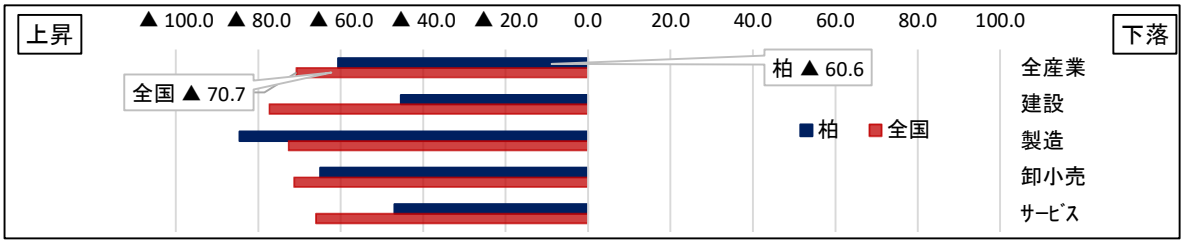
【売上ＤＩ】



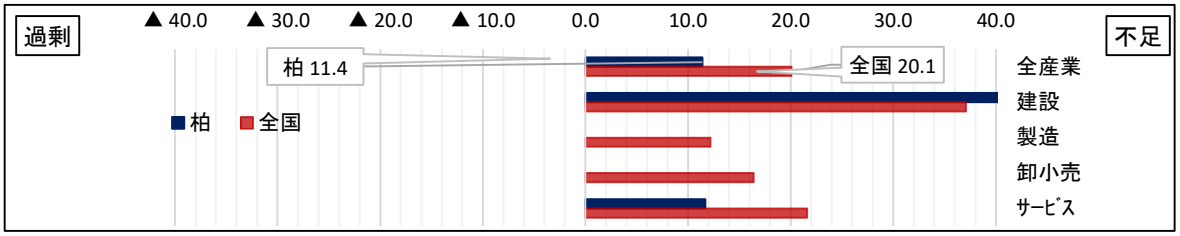
【採算ＤＩ】



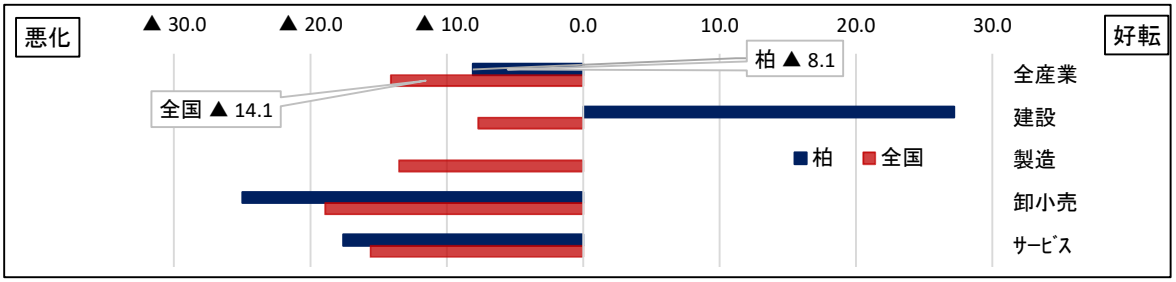
【仕入単価ＤＩ】



【従業員ＤＩ】



【資金繰りＤＩ】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概　　況	業種
建設業	材料費高騰のため畳工事代金を上げたので、業況改善した。	畳工事請負・畳製造販売業
	売上は減少し、採算はやや悪化したが、資金繰り等に顕著な影響はまだない。 世界情勢や国政状況に変化はあるが、技術サービス業として、今後の見通しは現況と大きな変化は見込んでいない。 我が国は世界的にみても地震大国であり、災害大国でもありますが、最近は地震災害に加えて、気候変動による影響と考えられる豪雨災害が多発している。弊社のような中小企業としてもこれらの災害に対処すべきBCPの見直しや、災害被害の軽減や速やかな企業活動の復活を真剣に考えなければならないと感じています。	地質調査・地質コンサルタント
製造業	化粧品関連は壊滅状態だけど医療費関連の新企画が続々立ち上がって底入れはしたようである。しかしまだメイン企画の先行きが不安定なので利益アップには繋がらない。	プラスチック加工
	8/13千葉県での豪雨による雨漏りのため、一部製品に被害あり。	酒類製造業
卸・小売業	8月上旬の台風通過（被害はない）から気温が下がりはじめ行楽需要が低迷。 8月中旬のゲリラ豪雨とお盆は出かける人が減少し節約や生活防衛の心理が浸透している。 2年前から商品の仕入れや資材の値上が続いており、一時は値上前の買いだめで底堅いものがあったが、値上ニュースに対する消費者心理は確実に反応が薄くなっている。 食品は価格訴求と価値訴求の二極化で客数をつなぎとめる工夫を継続している。 食品以外はシーズン品の消化が鈍くなっており何とか8月いっぱいで目途を付けたいとセールスの見直しを実施した。 ニュースは円安是正と消費税1%で先行きが見通せず、大きな流れがない中で意思決定が鈍くなっている。	大型小売店
	豪雨の影響で一部復旧の見通しが立たない。	その他の各種商品小売業
サービス業	近年、多い自然災害に、今一度、災害リスクの点検と備えを保険の見直しを含め行っていきたい。	不動産賃貸・管理業
	建築資材の高騰や建築の値上がりで売買価格も値上がりしている。それに加えて、連日の猛暑により客足が鈍っている。金利もじわじわとあがっており厳しい状況が続いております。	不動産管理業

調査要領

回答期間　令和８年8月24日　～　令和８年9月4日

調査対象　柏市内１７３事業所及び組合にヒアリング

＜業種別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全　産　業	173	61	35.3%
建　　設	38	11	28.9%
製　　造	44	13	29.5%
卸　・　小売	46	20	43.5%
サ　ー　ビ　ス	45	17	37.8%

調査方法と調査票

下記「質問Ａ」をＤＩ値集計し、「質問Ｂ」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問Ａ

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算（経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問Ｂ 業界内のトピック（記述式）

※ＤＩ値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

ＤＩ　＝　（増加・好転などの回答割合）　－　（減少・悪化などの回答割合）

※ＤＩ値と景気の概況

DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				